

「羅針盤」vol.24

校長 白岩博明

新型コロナウイルス感染対策のため、在校生欠席などの対応をとって規模を縮小して卒業式を実施いたしました。校名改称をして第1回目の卒業式でしたが、厳粛な中で卒業式を挙げてきました。

高等学校卒業証書授与式 式辞



真冬の到来を感じることはないまま、木々の芽吹きの季節を迎えようとする今日のこのよき日、卒業証書授与式を挙げてきますことは、誠に喜ばしい限りでございます。

卒業生90名のみなさん、卒業、おめでとうございます。

保護者のみなさま、高いところからではございますが、ご息女のご卒業、誠にありがとうございます。成長した我が子の姿に、感慨深い想いが込み上げていることと思います。心からお祝い申し上げます。また、この3年間、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。そして、本日の卒業式の挙行にあたり、ご多用の中をご臨席いただきました来賓のみなさまに、心からお礼申し上げます。

卒業生のみなさん、高校生活3年間を振り返ると、どんな場面が思い起こされますか。人それぞれに違いはあるでしょうが、すべては今しかできない、その時にしかできなかった貴重な経験であり、「必要なこと」だったのです。それらはみなさんを成長へと導いてくれたはずで

みなさんは「令和」元年度、広島修道大学ひろしま協創高等学校最初の卒業生として、忘れ得ぬ卒業生となりましたが、「鈴峯」から「協創」へ、本校の変革の時にあたり、みなさんは多くの戸惑いを抱いたに違いありません。校舎の移転、引越しと旧校舎が解体されたこと。女子校から共学校となったこと。2つの制服が混在していることなど、他にもあるでしょう。そうした中、みなさんには「協創」という新たな学校づくりに向けて、いくつかの提案をしていただきました。とりわけ自治会が提案してくれた協創スタンダード「エイム・ハイ」、「高みを目指す」は全校生徒のモチベーションを上げることに繋がりました。また、植野美羽さんとお母様の環様に提案していただいた新校歌の歌詞は未来に向けて本校を支えるメッセージとなりました。その2番は、まさしく「協創」の想いが込められています。

「互いに友を大切に 守り讃えて高め合う」

家族と同様、友だちの存在はありがたきものです。リスペクトし、切磋琢磨しましょう。

「感謝と恩を胸に抱き」

報恩感謝・実践、自分を取り巻く人やモノに対して感謝の想いを忘れないようにしましょう。

「自分を信じて歩みだす」

例えば、見通しのきかないとき、その時にこそ自分を信じて動き出し、歩みましょう。

「たゆまぬ力育みて」

自分を信じて歩みだすには、やり抜く力が必要です。日々、その力を備えていきましょう。

「未来協えて創りゆく」

過去は変えられませんが、未来は変えられます。グローバル・イノベーション・リーダー、地球的な視野で考え、地域社会と協創する人として、想いを同じくする多くの仲間と共に未来を切り開きましょう。

この歌詞は、本校のものであり、みなさんのものでもあります。そして、加速度的な少子高齢化、AI時代への突入を受け、未来の動向が不確実で、多様に変化をしようとするこの社会にあってこそ、この歌詞、言葉は意味を持ち、不可欠なものとなるはずで

この言葉のもと、数年後、十数年後、数十年後、「鈴峯の乙女」が、そして、「協創の乙女」が輝く女性であり続けていることを心から願っています。

結びに、卒業生のみなさんの今後の活躍と、ご参列いただいた保護者のみなさま、ご来賓の方々のご健勝を祈念して式辞といたします。

2020年3月1日